

付録 3:協働ギャザリング 2018(年度末報告会)
—「プロジェクト・マネジメント」と「協働ガバナンス」の評価
(個別案件)

【付録3:「プロジェクト・マネジメント」の評価と「協働ガバナンス」の評価(個別案件)】

協働ギャザリング 2018 年度末報告会における指摘事項

【付録3-1:協働ギャザリング参加者の評価コメントに基づく

「プロジェクト・マネジメント」(事業)／「協働ガバナンス」(協働)の有効性(プラス評価点)】

※[]内は採択された協働取組事例

		プラス評価点	
[1] エコ・モビリティ サツポロ	事業	効率性	● 地域の姿が変わっていく中で重要な役割分担がされていた点。[1]
		効果／目標達成度	● 町内会・商店街の方々への理解が進んだ点。[1] ● 地域における移手段の確保。→移動方法を核にコミュニティーを形成していく。[1]
		計画妥当性	● 配達ビジネスがコミュニティーとつながっていないことに着目し、高齢化と移動をつないだ取り組みである点。[1] ● モビリティ(移動)の重要性を、地域のアジェンダとして打ち込んでいく点。[1]
		関係主体の巻込度	● 町内会の関係者や行政職員から協力が寄せられた点。[1]
		関係主体の満足度	● 地域の未来っぽく目立つのが良い。[1]
		社会的インパクト	● 自転車タクシーという発想が良い。[1]
	協働	自立発展性	● —
		開始時の状況	● 地域課題が明確なこと。[1]
		運営制度の設計	● プラットフォームが具体的に形成された点。[1]
		協働のプロセス	● 理解者・同志の増加。[1] ● 理解者や同志が増えたのが良い。[1]
[2] 鶴岡市三瀬自治会	事業	効率性	● —
		効果／目標達成度	● 地域住民が山の未来について話し合うようになったことが素晴らしい。[2]
		計画妥当性	● バイオマス→三瀬の山→地域の未来という視点の広がりが良い。[2]
		関係主体の巻込度	● さまざまな関係主体が対等な立場で、ホンネで議論している点。[2]
		関係主体の満足度	● —
		社会的インパクト	● 金額ベースで目標が定められていた点。[2] ● 採算が取れるところまで事業が進んでいる点。[2] ● 自治会が主体となって事業化しているのが素晴らしい。[2] ● 自治会が住民や行政を巻き込んでここまで実践した実行力がすごい。[2]
	協働	自立発展性	● 次の目標を定める話し合いが行われているのが良い。[2]
		開始時の状況	● 課題に対する共通の認識が進んだ。[2]
		運営制度の設計	● 具体的な数値を設けて、里山の未来設計がされている点。[2] ● 運営方法について再検討していることがすごい。[2]
		協働のプロセス	● 地域住民がつながり、同じ目標を掲げて広がりを見せている点。[2]
[3] 都市環境サービス	事業	効率性	● 地域住民への周知や意識醸成のために「愛川町が好きな人」でイベントを行った点。[3] ● 「愛川町が好きな人」を切り口でワークショップをしている点。[3]
		効果／目標達成度	● リサイクルからテーマが拡大したことでつながりが拡大していった点。[3] ● 関係者となり得る地域住民がたくさん集まった点。[3]
		計画妥当性	● 環境と福祉の融合。テーマかくしというテクニックがすごい。[3]
		関係主体の巻込度	● 不特定の部外者を IT、SNS を使って集める手法が事業にマッチしている。[3]
		関係主体の満足度	● 地域のギスギスした関係を乗り越えた。[3] ● 「ゆるいつながり」が効果的だった。[3]
		社会的インパクト	● 企業が本業を通じて環境×福祉のコ・ベネフィットに取り組んでいるのが素晴らしい。[3]
	協働	自立発展性	● —
		開始時の状況	● —
		運営制度の設計	● —
		協働のプロセス	● 誰でもわかる言葉を用いた巻き込み方が良い。[3]
[4] 柳沢林業	事業	効率性	● 健康と絡み付ける視点が良い。[4]
		効果／目標達成度	● 森も人も健康になるという価値確認。[4] ● 筑北村地域全体と里山の価値見直しを行った点。[4]
		計画妥当性	● 異なる分野をつなげる点。[4] ● 多様なプログラムが実施できている点。[4]
		関係主体の巻込度	● 健康、福祉、環境、山林による関係者のつなぎ方が良い。[4]

			● 林福というつながりが興味深い。[4]
		関係主体の満足度	● シンプルな目標が丁寧な活動でひとつの新しい社会を生んでいくのが分かった。[4]
		社会的インパクト	● 林業と福祉をかけ合わせて民間レベルで実現しようとしているところがすごい。[4] ● 民間企業主体の取り組みであること自体評価できる。[4] ● 森×福祉(健康)人づくりのテーマは、SDGsにつながる。[4] ● 森林の新しい活用可能性が見えた。[4]
		自立発展性	● ー
	協働	開始時の状況	● 里山に関心を持ってもらうための様々なアプローチを、多様な専門性を持つ主体で創出している点。[4]
		運営制度の設計	● 立場や分野の異なる組織との連携。[4]
協働のプロセス		● ステークホルダーの関係性がより深くなり、広がりを見せている。[4]	
[5] ヨシネットワーク	事業	効率性	● 学生や外国人へのアプローチ。[5] ● 専門家や学生など、他の地域を含めた連携が良い。[5]
		効果／目標達成度	● 地域住民同士のつながりが生まれた点。[5] ● 協議会が設立された点。[5]
		計画妥当性	● ヨシをシンボルとする湿地のワイズユース。[5]
		関係主体の巻込度	● 「幸せになる」というフレーズが関係主体との共感を生んでいる。[5]
		関係主体の満足度	● 「誰もが幸せになる」を具体的に掘り下げた点。[5] ● 参加、参画した人に笑顔が増えた。[5] ● 都会の人と関わったことで地域の良さを発見できた。[5]
		社会的インパクト	● ヨシを使う文化を遺すことに着目した点がユニーク。[5]
		自立発展性	● ー
	協働	開始時の状況	● 官民様々な立場とのつながりが生まれた点。[5]
		運営制度の設計	● 若者を巻き込む設計が良い。[5]
		協働のプロセス	● 何気ない行動が若者へ驚きを与えており、学生との協働が生まれた点。[5]
[6] うべ環境コミュニティー	事業	効率性	● 既存のものをつなげていく点。[6]
		効果／目標達成度	● 環境学習の横のつながりができた。[6]
		計画妥当性	● 地域全体の教育力向上を目標とした点。[6]
		関係主体の巻込度	● スポンサー応援者が活動目的に賛同している点。[6]
		関係主体の満足度	● 支援者が増えていることが素晴らしい。[6]
		社会的インパクト	● 産官学民協働、ダイナミックなとりまとめ、中間支援活動、仕組みづくりが素晴らしい。[6]
		自立発展性	● 教材化で人づくりができていく点。[6]
	協働	開始時の状況	● 地域資源としての企業の活用を考えた点。[6]
		運営制度の設計	● 会議や事業の数がすごい。[6] ● 教員との連携が具体化していて素晴らしい。[6]
		協働のプロセス	● 「みんなの目標」を示した点。[6]
[7] 阿南市KITT賞賛推進会議	事業	効率性	● 新聞づくりと中学生の参加。[7]
		効果／目標達成度	● 地域の温度差が無くなった点。[7]
		計画妥当性	● 島民の関心が高いササユリを中心とした取り組みが良い。[7] ● 取り組みの着眼点が良い。[7]
		関係主体の巻込度	● 島のシンボルにステークホルダーが寄り添い、課題解決に動いている点。[7] ● 中学生の巻き込みが良い。[7] ● 企業の賛同が広がるのが素晴らしい。[7] ● 地元企業の巻き込みが良い。[7] ● 地域のササユリボランティアだけでなく、企業の協力が増えた点。[7]
		関係主体の満足度	● 5回目となった生物多様性フォーラムの中で「協働」の課題が出来たことに、取組の深化を感じた。[7]
		社会的インパクト	● ササユリボランティアによる交流人口の増加が素晴らしい。[7] ● 島外のボランティアの協力が得られた。[7]
		自立発展性	● 活動拡大につれて課題も拡大するが、工夫を続けている点。[7] ● 地元企業からの資金援助がある。[7] ● 金融機関の参画が良い。[7] ● 活動助成してくれる企業が増えている。[7]
	協働	開始時の状況	● ー
		運営制度の設計	● 取組へ興味をもってもらおう方策を実行している。[7]
		協働のプロセス	● 中学生による新聞づくりで地域の理解を得た。[7]

[8] おきなわグリーンネットワーク	事業	効率性	● テーマを赤土流出に絞って、統合的な連携を実現している点。[8]
		効果／目標達成度	● 人材育成が具体的に進んでいるのが良い。[8] ● コーディネーター事業が拡大を見せている点。[8] ● 小学生を対象とした環境学習が良い。[8] ● 観光との連携が生まれた点。[8] ● 赤土流出防止に向けた根拠が明確となった点。[8]
		計画妥当性	● 総合的な取組かつ広い地域で対応している点。[8] ● 島での取り組みとは思えないほど計画性が良い。[8] ● 3年間という長期間で活動ができたことで、より完成した取り組みに到達しており、目標設定の良さを感じた。[8] ● 3年間継続できたからこそその成果だと思う。[8]
		関係主体の巻込度	● 高校生の巻き込みが良い。[8] ● 学校とのつながりができている。[8] ● 各自治体で異なる部局をつなげた点。[8]
		関係主体の満足度	● 年々、着実に協働の輪が広がっているのがすごい。[8]
		社会的インパクト	● 多く関係者を巻き込んでつなげていった取り組みがすごい。[8] ● 農家と漁業者をつなげたのがすごい。[8] ● 「つなぐ」×「組み合わせる」からの広がりが素晴らしい。[8] ● 地域の豊かな自然を活かした持続する地域コミュニティーであると感じた。[8]
		自立発展性	● 蜂蜜オイルによって自走に向けた資金化が良い。[8] ● 福祉にもお金がまわる仕組みづくりが良い。[8]
	協働	開始時の状況	● 農業と観光を結びつけた視点が良い。[8] ● 農業環境コーディネーターとの連携が良い。[8]
		運営制度の設計	● 行政の縦割り（環境と農業）をNPOがつないでいる点。[8] ● 分野や人を「組み合わせる」が大切なことが分かった。[8] ● 様々な関係者をつないでいる点。[8]
		協働のプロセス	● 課題解決に向けた取り組みが、多様な関係者の広がりにつながった点。[8]

[1](特非)エコ・モビリティ サッポロ／[2]鶴岡市三瀬地区自治会／[3]都市環境サービス(株)／[4](株)柳沢林業／[5]ヨシネットワーク／[6](特非)うべ環境コミュニティー／[7]阿南市 KITT 賞賛推進会議／[8](特非)おきなわグリーンネットワーク

【付録 3-2: 協働ギャザリング参加者の評価コメントに基づく
「プロジェクト・マネジメント」/「協働ガバナンス」の提案・改善点】

提案・改善点		
	「プロジェクト・マネジメント」(事業)	「協働ガバナンス」(協働)
[1] エ コ ・ モ ビ リ テ ィ サ ッ ポ ロ	<ul style="list-style-type: none"> ● 次々アクシデントが発生しているが、どう対応して苦勞したか知りたい。[1] ● ベロタクシーについて、ラッピング広告は検討したか？[1] ● お金、ハード類のつくり方を知りたい。[1] ● なぜ自転車タクシーなのか？落下傘的に見えるが、地域のニーズは何か？[1] ● 「住民」にとってのメリットの見える化・発信が必要ではないか。[1] ● 日本語で、「モビリティ」で何を指すかを発信してもらえると取組が実感しやすいと思う。[1] ● 地域の「免許の返納率」を調べるなど、説得したい人たちが乗れる情報を集めるアプローチをとってはどうか。[1] 	<ul style="list-style-type: none"> ● 市の環境局と都市計画部局の連携が難しいのはなぜか？[1] ● 町内会へのアプローチは慎重じゃなくてもよいのか？[1] ● 地域の合意形成はどうしたか？[1]
[2] 鶴 岡 市 三 瀬 地 区 自 治 会	<ul style="list-style-type: none"> ● 数値目標の出し方、共有の手法は？[2] ● バイオマスの経済効果は？[2] ● 需給の仕組みは？[2] ● ボイラーストープの導入コストをどう賄うか知りたい。[2] ● 2年間、難しい課題と取り組んだ結果、そこから見えた問題点を明らかにする必要があるのではないか。[2] ● 内部の経済効果の数値も出るといいと思う。[2] ● 木を燃やさず付加価値を付けて販売するという手段もあると思う。[2] ● 小さいプロジェクトをいくつも回していくことの工夫は？[2] 	<ul style="list-style-type: none"> ● 近隣自治会との連携の拡大や波及の可能性はありますか？[2] ● 伐採の人材、再造林の人材はどうしているのか知りたい。[2] ● 話し合いの後、具体的にどうなったか見える化が必要ではないか。[2] ● 地域内消費には限界があることから、地域外消費を広げるための自治体間の連携を勧める。[2] ● 関係者間での調和をどのようにしているか？[2]
[3] 都 市 環 境 サ ー ビ ス	<ul style="list-style-type: none"> ● 愛川町を好きな人とリサイクルをどうつなげたか知りたい。[3] ● 住民の関心喚起の戦略を知りたい。[3] ● プラリサイクルを振興することを目的に掲げているが、プラ容器包装が増加し続けていることについてどのように捉えているか？[3] ● リサイクル×障がい者雇用の次の展開をどうしていくのか？[3] 	—
[4] 柳 沢 林 業	<ul style="list-style-type: none"> ● 経済的自立に向けての具体的青写真はありますか？[4] ● 効果測定や評価が今後はとても重要になる。[4] ● ビジネスモデルが知りたい。[4] ● 山や森で、実際にどのような作業を行っていたか知りたい。[4] 	<ul style="list-style-type: none"> ● 社協と行政を巻き込むのは大変なので、まずは方向性を合わせていくのが肝になるのではないか。[4] ● 医療、福祉の人をどう引き込んだか？[4] ● 全国規模でステークホルダーを集めたが、どのようにして集めたのか？[4]

<p>[5] ヨシネットワー ク</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● ヨシ産業の復興の可能性は？ [5] ● 今後、ヨシの生業、農業の担い手は誰か？ (ヨシ→加工→販売) [5] ● ビジネスモデルあるいはボランティアや政策による継続の担保を具体的に知りたい。 [5] ● CSR だけではなく、地域が求める企業の姿を学生などの若者に発信できる仕組みを取り入れては？ [5] ● ESD は広範なので、より具体的な言葉に落とし込んでいけると良い。 [5] ● 近畿 ESD コンソーシアムとは何か？ [5] ● ネットワークを NPO 法人化はしないのか？ [5] ● 留学生による SNS 発信をしてみても？ [5] 	<ul style="list-style-type: none"> ● 国産ヨシを購入した者を意識したエクスカージョンを行い、担い手を探すための糸口にしてはどうか。 [5] ● 若者世代の参加・参画はあったか？ [5] ● ステークホルダー形成で苦労した点は？ [5] ● 近江八幡市との協働について知りたい。 [5] ● ラムサール条約登録湿地のワイズユースの考え方そのものだが、ラムサール関係の団体との連携は？ [5]
<p>[6] うべ環境コ ミュニティ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 教材化のコツや苦労を知りたい。 [6] ● 学校との調整はどのように？ [6] ● アンケートなどの調査で教育力の向上と結果を客観的にアピールしては？ [6] ● 学校教育での取り組みの強化に向けた戦略はあるか？ [6] 	<ul style="list-style-type: none"> ● 宇部市に地域を限定し過ぎているのではないか。その理由は何か。 [6]
<p>[7] 阿南市 KITT 賞賛推 進会議</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 事業の推進主体はどうなっているのか？ [7] ● 島で生きることの外部からの評価づけが知りたい。 [7] ● 島への若者定着にもつながっているか？ [7] ● 中学生のヒアリングを活用されたのが面白いので、今後の若者の参画をどのようにすすめるかを聞きたい。 [7] ● 「東北食べる通信」のような漁師×消費者のコミュニティー形成があっても良い。 [7] ● 地元企業との連携における留意点、ノウハウを整理されると視察などが増えるのではないか。 [7] ● 新たな取り組みとして、再生可能エネルギーを島に導入してはどうか。洋上風力発電はどうか？ [7] 	<ul style="list-style-type: none"> ● 島民の受け入れ姿勢がどのように変化してきたか知りたい。 [7] ● 島民の意識変化と参加増の状況は？ [7]
<p>[8] おきな わグリー ンネット ワー ク</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 社会的学習の場づくりが必要ではないか。 [8] ● 農業高校や水産高校に対するリスクがあるのではないか。 [8] ● 他の地域に取り組みが広がると良いと思う。 [8] ● 国頭村での環境改善工事を紹介したい。 [8] ● 沖縄の赤土流出について、他県ではあまり知られていない。 [8] ● 自走に向けた計画はどうなっているのか知りたい。 [8] ● 広がりのみでは持続性を担保できないと思うが、広がりは何を伴ったか？ [8] ● 取り組みの受益者のメリットを知りたい。 [8] ● 農業環境コーディネーターが 10 地域から 15 地域に増えるよう働きかけてみては？ [8] ● 協議会を組織化しては？ [8] ● 協議会の活発化を図る。 [8] ● お金の流れを知りたい。 [8] ● 農業環境コーディネーターと観光はビジネスになったのか？ [8] ● 赤土対策の今後の展開分野をもっと知りたい。 [8] ● 環境学習の受講者認定書の配布は、制度としてリ 	<ul style="list-style-type: none"> ● 3 年間で得られた成果であり、協働には時間がかかる。 [8] ● 漁協との新たな協働が生まれることに期待している。 [8] ● 各ステークホルダーの年齢構成は？ → 可視化が有効だと思う。 [8] ● 協働取組の最終的なイメージは？ [8] ● 事業の共有の場づくりが必要ではないか。 [8]

	<p>ーダー養成などにつながっているのか？[8]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 地域住民への成果の可視化とフィードバックはどうしているのか？[8] ● 各農家や集落ごとの具体的な取り組みが知りたい。[8] 	
--	--	--

[1](特非)エコ・モビリティ サッポロ/[2]鶴岡市三瀬地区自治会/[3]都市環境サービス(株)/[4](株)柳沢林業/[5]ヨシネットワーク/[6](特非)うべ環境コミュニティー/[7]阿南市 KITT 賞賛推進会議/[8](特非)おきなわグリーンネットワーク